

ニルスン博士を囲んでの「花粉ゼミ」について

信州大学教養部 豊 国 秀 夫

私は信州大学環境問題研究教育懇談会のメンバーの一員として、教育の中に信州の自然環境モニタリングを取り入れたいと考え、教養部でのゼミの一つに、アレルギー源となる空中花粉の調査・同定を主目的とする「花粉ゼミ」を1979年以來開講して来ている。

たまたま、昨1981年11月に、日本花粉学会の招きで、ストックホルムの自然史博物館花粉研究所々長で、国際空中生物学会々長のニルスン(S. Nilsson)博士が来日された時、ニルスン博士を囲んでの「花粉ゼミ」をおこなった。最初20分間程スライドを使用してニルスン博士に「The A B C of Aerobiology」というテーマで空中生物学の話をして貰った後、質疑応答がなされた。



ニルスン博士の話は、1930年代に生まれた「空中生物学(aerobiology)」という分野は、最初花粉・胞子を研究する学問分野であったが、その後空中生物学の概念が拡大され、生物起源の空中浮遊物質、さらに生物に影響を与える空中浮遊微粒子や気体の研究迄含むようになった」という出だしではじまり、空中花粉や胞子の図や走査電顕像など示され、ストックホルムにおいて実際に花粉をモニタリングしている装置などもスライドを使い説明された。正規のゼミの学生以外にも、ゼミの先輩、関連ゼミの学生と先輩、さらに教養部生物学教室の吉田利男、相馬潔両先生、山本雅道氏なども出席して下さい、茶話会的なりラックスした雰囲気の中で空中生物学に関する最新の知識を身につけることができた。散会してからは、ニルスン博士が、花粉プレパラートを顕微鏡で見ながら、ゼミ学生に対し何の花粉か当てさせるテストをおこなうという一幕もあった。はじめての試みではあったが、一応この企画は、教育的に十分効果があがったと考えられるので、ここで御報告申し上げる。

最後に、こういう機会を与えて下さった日本花粉学会の上野実朗会長と徳永重元博士に感謝申し上げますと共に、このゼミに出席して種々御教示いただいた吉田、相馬両先生および山本氏に御礼申し上げます。